

自分に打ち勝ち
高みを目指す



©日本フェンシング協会/Augusto Bizzi/FIE



2



©日本フェンシング協会/Augusto Bizzi/FIE

1, 3 世界ジュニアカデ選手権での試合風景 2 菊池さん

菊池 徹平さん

プロフィール

母の影響で小学2年生からフェンシングを始める。世界ジュニア・カデフェンシング選手権大会に2年連続出場。その他、さまざまな国内外の大会に出場、優勝し、活躍している。

今年1月に駒沢オリンピック公園体育館で開催された、全日本選手権大会の出場など限られた選手のみが参加できる「第30回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会」。本大会に出場した菊池徹平さんが、見事、優勝を飾りました。

フェンシングは、幅2m・長さ14mの細長いコートで、剣を持ち、「突き」や「斬り」を行い、1対1で対戦するスポーツです。フェンシングには、使用する剣やルール、身体を突いて得点が認められる「有効面」が異なる「フルール」「エペ」「サーブル」の三種目があり、菊池さんは主にエペを得意としています。エペは、全身が有効面で、攻撃は突きのみ。先に突いた方にポイントが入ります。エペの魅力について菊池さんは、「早く突いた方が勝ちなので、相手との読み合いが頭脳戦で面白い」と話します。

本大会は日本代表の選考に関わる4つの大会の中の1つで、4つのうち2つで優勝した菊池さんですが、直前の大会ではベスト16で敗退。試合の前に、「気の緩みがあった。絶対に優勝する」と鏡の前で自らを鼓舞し、本大会に臨み

ました。「ベスト8に進出できれば優勝できると考えていたので、ベスト8進出を懸けた試合では、気持ちで負けずに挑んだ」と大会を振り返ります。見事、本大会で優勝した菊池さんは、日本代表として、世界ジュニアカデ選手権への切符を手に入れました。

世界ジュニアカデ選手権の前に、3月にウズベキスタンで行われたアジアジュニアカデ選手権では良い成績を残すことができなかった菊池さん。コーチからの「速く攻撃しないと海外では勝てない」というアドバイスを受け、手を意識した練習に励みました。その結果、4月にブルガリアで行われた世界ジュニアカデ選手権では、練習の成果を発揮し、見事ベスト16に進出することができました。

今後の目標について、「今年から17歳以上20歳未満のジュニアの部に変更になり、対戦相手は強い選手ばかりになるため、自分の力がまだ足りないと感じている。上位の選手が集う合宿に参加する権利を得る、上位16人を目指し、練習を続けたい」と力強く話します。現状に満足せずに、常に高みを目指す菊池さん。止まることのない成長に今後も目が離せません。